

2017年3月14日第3回検証委員会資料

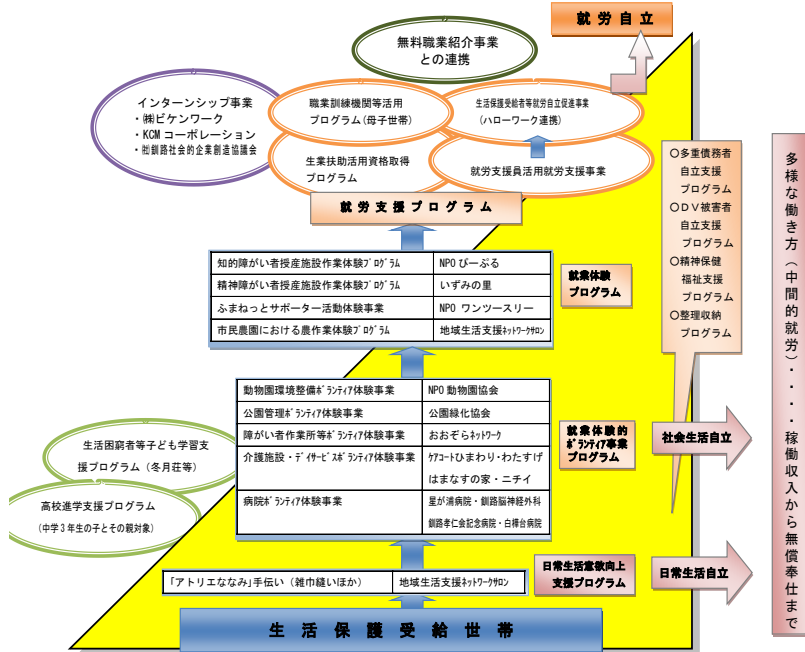
『小田原で希望を持って生きる』・・・委員・櫛部 武俊

私は欠席も含め現状・課題について全面的には把握しきれていないと思います。自分のケースワーカーとしての体験からくる推察なども混じった提案であることをお許しください。

- ① 濫給と漏給の狭間にあってCWだけで解決しようとした自己完結型の閉じられた『団結』だったと思います。
- ② 自立助長の中核は自尊心の回復だと私は思います。果たして受給当事者の、そしてCWの自尊心は大事にされたのでしょうか。大事だとしてきたのでしょうか。
- ③ 2003年からの自立論と自立支援プログラム、社会的居場所と新しい公共、生活困窮者自立支援法　そして現在進行している『わがことまると地域共生社会』などを国の丸写しということではなく自治事務の観点で議論や取り組みがなされてきたのでしょうか。福祉事務所主導型、市役所主導型でことにあたってきた結果、保護対策の枠で収まってきたのではないのでしょうか。
- ④ 小田原市の学習支援の取り組みには当事者参加型の雰囲気と匂いを感じました。大人においても『稼働能力のオールオアナッシング』の呪縛から離脱し当事者参加や地域の参加など庁内連携や地域の資源の助けを借りて地域に根ざしたプログラム、当事者のニーズや自尊感情に根ざした支援プログラム作る必要があると思います。
- ⑤ 全庁的な連携体制を構築する必要を感じました。税、国保、住宅、医療など福祉の集まりだけではない体制です。保護部門を孤立させないというだけではなく市民が抱えている困難が複合的であるから横串が求められると思います。
- ⑥ 当面4月から庁内と庁外（そのミックスや当事者の参加など）広く人知を集めた小田原市自身の包括的な支援体制の構築に向かうべきと思います。そのなかで福祉事務所の在り方、自立支援プログラムの在り方、生活困窮者自立支援のあり方を前進させていただきたいと願います。
- ⑦ 最後に市長、副市長にお願いしたいことがあります。市役所の仕事の中で不人気と言われる職場ほど市民生活に欠かせないものはありません。その職員が大事なんだというメッセージを折に触れて発信してください。月に一回とは言いませんが職場を訪れ一般職員に話しかけてください。それに勝るものはありません。

※釧路市の自立支援の取り組み参考図添付

釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況 (H28年4月現在)



自立支援プログラムの様子





## 地域で支えられていた人が 支える人に回る仕組みを構築

### 生活困窮者支援を通じた地域づくり

- 漁業は、釧路市・厚岸町の基幹産業であるが、その下支えをしている漁網業界の現場(整網作業)で高齢化が進み、担い手不足により業界の存続が危惧されている。
- 整網作業は、機械化するのが困難であり、今後も手作業に頼るしかないのが現状である。
- 新たな担い手が生まれにくい大きな要因は、作業の習熟度が上がらないと、一定の収入が得られないことにある。
- そこで、本協議会の取り組む中間的就労自立の場として、整網作業に取り組み、同時に問題解決を図るのが狙いである。

# 漁網の仕立て作業等



## 釧路市都市経営戦略プラン

### 人材育成と雇用づくり



生活保護受給者の就労の様子  
(自立支援プログラム)

地域の労働力を向上させ、釧路市を支える確かな基盤を作るため、地域経済を支える人材の育成に取り組みます。  
新たな雇用の場を創出するため、企業と求職者のマッチング、雇用の場となる中小企業の支援を行うほか、ソーシャルビジネスによる雇用づくりに取り組みます。

#### 具体的な取組例

- 将来の担い手である子どもたちに向けた、職業や社会を体験できる場づくりや学んだことを社会で実践できる場づくり など
- 釧路における様々な事業を支えるための有資格者の養成や人材育成を図る取組
- 生活保護受給者の中期的就労自立に向けた調査研究
- 地元技術や匠（人）の認証制度など頑張る企業、挑戦する企業を応援する取組
- ソーシャルビジネスの担い手となるNPOなどが活動しやすい環境づくり